地元の魅力「方言について」 第六回

H28 年 1 月 27 日

第一回で”おっそろしい”とは話の内容で驚いたりしたときの合いの手と書いたが、「続々民俗茶ばなし」小谷野寛一書より拾い出す。
これは飯能に限らず各所で聞く言葉である。驚いたり感心したりした時出る言葉で、相手の話への合槌となる。
例えは「昨日の雪は吾野で 20 センチもありましたよ」「おっそろしい」という具合である。漢字で書けば「恐ろしい」であろうが言葉では色々に変わってくる。「おっそろ」となったり「わっそろ」となったりする。相手の話を受けて会話に活力を与える働きをするから相手が自然と調子づく場合もある。
同じような合いの手言葉に「フーン」や「ハアー」や「なるほど」「大きに」もある。漢字には成程で、まことに・いかにもの意である事は言うまでもない。
おおきに「大きに」は大いに・非常にの意で、賛成・ごもっともの気持ちである。
「市の道路問題も早く片付くといいですね」「大きに」―といった具合に用いられる。関西では「大きに有難う」を略して「大きに」で済ませているが、これは気軽に使ってとても感じがよい。
我が地区も県道路改善要望書を長年申請しているが「道路問題が早く片付くといいのですが」解決できれば、皆で「大きに」と言いいたい。

発音のずれ:田舎生活では口のあけかたはっきりしないから、なまりが生じた
・見合い ⇒見やい ・受合う ⇒うけやう ・場合 ⇒ばやい
・にんじん ⇒ねんじん ・えんの下 ⇒いんぬ下 ・インキ ⇒エンキ
・えだ ⇒いだ ・打ち壊す ⇒ぶっこおす ・灰 ⇒へえ、ひゃあ
・俺ばかりが ⇒おれべえ ・食べなさい ⇒食わっしぇ― ・何だ ⇒あんべえ
・何という ⇒あんちゅう ・呉れ ⇒くろ
こうした言葉の中には、素朴な生活が生んだ、いかにも感情のこもったものもあるが、地域語としての垢あかをしょっている。

「ところかわれば-はんのうむかしことば」著書より抜粋。
・あにこく(だ) ⇒何を言う(か)、相手のことばを打ち消すとき
・あぜや ⇒なぜですか ・あじょうにも⇒できることなら ・あんばい⇒ありさま
・いんべえ ⇒行くべぇ、いかないか ・うざったい ⇒気味が悪い
・えーぞえーぞ ⇒ひやかし ・おいとばす ⇒おいはらう ・おしと ⇒お年玉
・おてんたら ⇒おせじ、ごますり ・おてんま ⇒無報酬の共同作業
・おっぺす ⇒押す ・おっぱしる⇒行く、去る ・おへんなし⇒どうでもよいこと

・おめんち　⇒お前の家　・おらんち　⇒俺の家　・おめえら　⇒お前たち
・おおざっぱ　⇒おおまか、大体　・おらぁほぅ　⇒おれのほう　・ガキ⇒子ども
・かったりい　⇒疲れてだるい　・きなくさい　⇒こげくさい
・けさがた　⇒今朝あたり　・こっぺぇ　⇒こなまいき、よけいなこと
・こんりんざい　⇒絶対、永久　・ざまあみろ　⇒それ見たことか
・しゃあがる⇒するか（何をしゃあがる）　・じゅくうゆうな　⇒文句を言うな
・そっぽうでんじ⇒粗雑な田地　・そうじゃぁあんめい⇒そうではないでしょう
・そうこいてる　⇒そう言ってる　・だんべ　⇒だろう　・ちっちぇえ⇒小さい
・ちょろっか　⇒軽率　・つっぱしる　⇒威勢よく走る　・つっぱねる⇒ことわる
・つっくるめる　⇒ひとまとめ、ひとくくり　・つらっぱしない　⇒遠慮しらず
・てめいら　⇒お前たち　・てんこもり　⇒山盛り　・でほうだ（で）い⇒でたらめ
・でっけい　⇒大きい　・とてしゃん　⇒すてきな美人　・とばっくち　⇒一番目
・なにしゃがる　⇒何をするか　・なんざあ　⇒自他をへりくだっての発言
・のうてんき　⇒向う見ず　・ばかちから　⇒必要以上の力、無意味な力
・ばかこくな　⇒ばかなことを言うな　・ひゃっこい　⇒つめたい
・ほざく　⇒ののしった言い方　・めっためった⇒やたら　・めった⇒めずらしい
・めっけもの　⇒ほり出し物　・もちざっぱい　⇒物を粗末にする
・やろっこ　⇒男の子　・よいっぱり　⇒夜遅くまで起きていること
・よだれ　⇒ゆだれ　・よまいごと　⇒ぐち、くどき話

飯能言葉（方言）には長い歴史（鉄文化）と産業（紙漉き・お蚕・西川材筏流し・焼物・水車（脱穀）など）及び自然（名栗川、山々）に恵まれた土地があり多岐にわたる文化により飯能言葉が生まれてきたと思われる。
山間部特有の方言と各地の言葉（東京・秩父等）との交流も盛んに行われ、現在では方言は殆ど聞かれなくなっている。
郷土史関連資料から抜粋してみたが、自分が知っている言葉が多くあることも知り大変勉強になりました。「方言について」は第6回にて終了とします。

以上

参考著書

・ふるさと漫録　西村　一男書
・民俗茶ばなし　・続民俗茶ばなし　・続々民俗茶ばなし　小谷野寛一書
・おらあほうの標準語　・続おらあほうの標準語　山岸　統　書
・はんのうむかしことば
・飯能市史（資料編）